

ろく たん だ み な み い せ き 六反田南遺跡

現地説明会 資料

平成 24 年 10 月 27 日
国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所
新潟県埋蔵文化財調査事業団
新潟県教育委員会
綱吉田建設

遺跡の概要

六反田南遺跡は、糸魚川市大和川宇六反田地内に所在します。遺跡から海岸線までは直線距離で北に 200 m ほどであり、海川下流右岸の標高 3 ~ 6 m の沖積低地に立地しています。

発掘調査は、北陸新幹線及び一般国道 8 号糸魚川東バイパス建設に先立ち平成 18 年から継続して行っており、今年で 7 年目となります。

今までの調査で、本遺跡では縄文時代中期から近世まで断続的に続き、縄文時代中期前葉 ~ 中葉、古墳時代前期・後期、古代に集落が営まれていたことが分かっています。県内の縄文中期の遺跡としては珍しい、低地集落であることが明らかになりました。また、古墳時代の玉作関連の遺物が多く出土しました。

北陸新幹線関係の発掘調査は既に終了しており、現在は糸魚川東バイパス法線内の調査をしています。本年度は 2 調査区 (KC 2 区、市道 2 区) を対象に、上層 (弥生時代 ~ 近世)、下層 (縄文時代中期前葉 ~ 中葉) の 2 面、延べ 3,850 m² を調査しています。

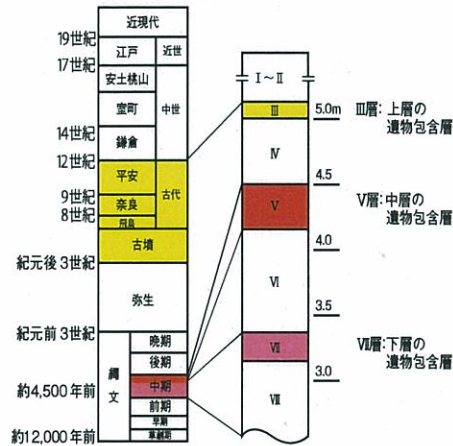
基本層序

- I 層 現代の水田
- II 層 近世 ~ 中世の遺物包含層
- III 層 古墳時代・古代の遺物包含層
- IV 層 洪水堆積層
- V 層 縄文時代中期中葉の遺物包含層
- VI 層 洪水堆積層
- VII 層 縄文時代中期前葉 ~ 中葉の遺物包含層
VII層はさらに a ~ d の 4 層に分かれます。
- VIII 層 縄文時代中期前葉 ~ 中葉の遺構検出面
- IX 層 礫層

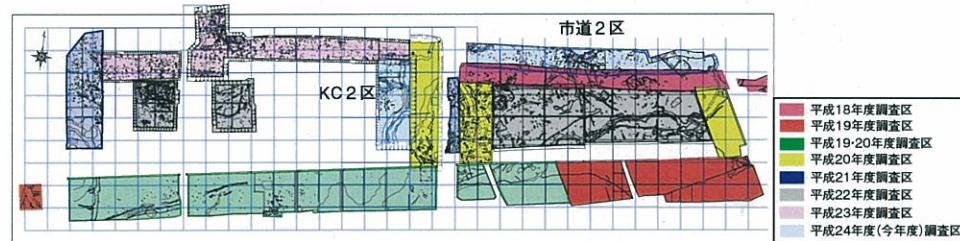
★今見えている面は VII 層で、約 4,500 年前の地面です。



六反田南遺跡の位置



基本土層模式図と歴年代比較表



平成 18 ~ 24 年度までの調査区配置図

上層の調査 (古墳時代 ~ 奈良・平安時代) ※発掘は終了しています。

上層の概要

今年度は KC 2 区と市道 2 区の 2 か所を調査しました。いずれも標高約 6 m を測ります。

KC 2 区

古墳時代から古代に流れていた自然流路とそれに合流する溝、ピットなどが検出されています。自然流路は南東から北東へ伸びます。深さは約 1.8 m あり、縄文時代の遺物包含層 (下層) を壊しています。流路内からは、多数の木製品 (呪符木簡・曲物・下駄・建築部材など) や、土器 (須恵器・土師器) が出土しています。

これまでの調査から、自然流路よりも東では古墳時代、西では古代の集落が見つかっており、時代による選地の違いが分かります。

市道 2 区

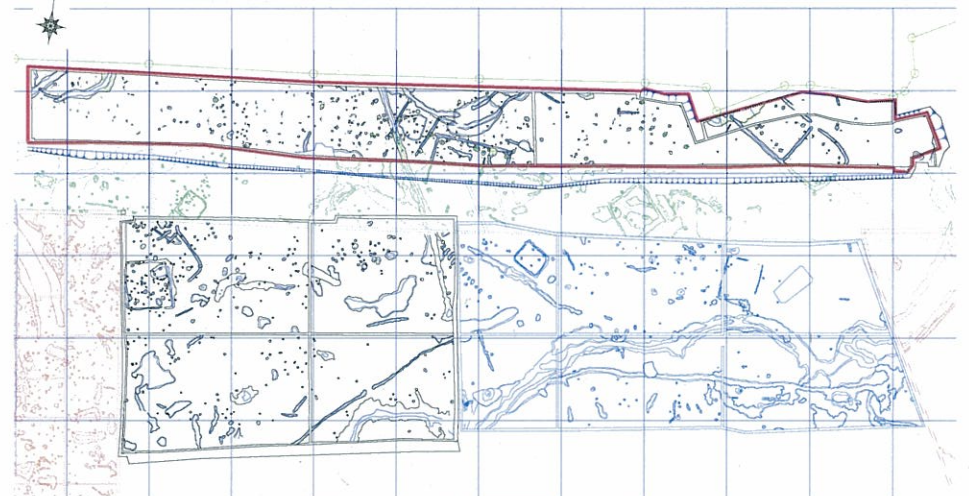
古墳時代前期の集落が見つかりました。2 棟が並列する平地建物や大型の掘立柱建物、土坑、溝、ピットなど多くの遺構が検出されました。平地建物の壁溝からは、多数の土器が出土しました。本区の出土品の中には玉類 (管玉・白玉) やその材料となる緑色凝灰岩・ヒスイ原石などがあります。周辺遺跡においてもこのような遺物が出土しており、糸魚川市域一帯では玉作りが盛んに行われていたことがうかがえます。



市道 2 区上層完掘状況 (上空から)



KC 2 区自然流路遺物出土状況 (北東から)



平成 24 年度 市道 2 区平面図 (赤枠内)